HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特殊講義案 ： 都市と村落III
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77375
Type	manuscript
File Information	N029_01S36.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

TRADE MARK
BBB

SA
4

Superior Note Book

社會学研究法

東洋大学大学院
修士過程

社会学演習

昭和二十六年度

TOKYO B.B.B.

私は前年度は社会生活の三つの基本的な枠組であるところの家族、職業社会、及び国民社会の各々において、社会学の学界ではどんな点が問題となっているか、又それ等の枠組の各々ではどんな現象が現在では問題となっているかについて話した。それは卒論や（その他の社会学）研究論文を書く場合の諸君の研究テーマをさがすのに最も役立つ線だと思ったから右の様な講義を行ったのである。それが又どれ丈役に立ったかは分らない。けれども、その場合右の三つの枠組についての私自身の理解は既に著書において公にしてあったからである、積極的には示さなかった。それはか

一年おきには、各枠組内の一般研究す情（昨年の様子）と枠組外の特殊問題（研究に役立つ様な考へ方）（一昨年の様な（昨年の例は往々例へば）もの）が行はれてもよいと思ふ。例へば都市の部で「職域集団」と住居（世帯）との比重」の如し「結節性有無の事例として論点」

祭礼と宗教との比較研究の如し「現代都市は郷土史の様な時事的な業の上に立って世界経済の現在の様の人間関係の上に僅かに影響する」の如し

現在の社会に対して考慮する余地の問題を浅く（？）に問題にすることは望ましい。

けれども、学生の内にはまだ遠くについていない人もある様だし、又研究会などの多くは正確に私の所説を理解していない（一般 様である）。充分に理解しているのは少ない。そんな事情もあるから、せめて私が直接指導する諸君には正しく理解して貰ふ為にも、先の二つの枠組の各々について私の論旨の中枢部門を簡単に示す事（と現在の私の考へ方）としたい。

思ふ。それは結局私の（において主張する点）

家族社会学 [illegible]

農村社会学 [illegible]

都市社会学 [illegible]

国民社会学 [illegible]

を示す事となる。この一年間にそれを果したい。

とも思った。

※私は宗教、村落、都市及び国民社会の四つの基本的枠組について考えて把握。※いるのであるか、国民社会についての考へ方は、私自身未熟なところが多い。（決定的な論述をさけているところが[illegible]）~~ので、国民社会はやや抽象的な説明する場合と当てはまらない場合があります。~~

即ち三十四年度において

私は本学に来た第一年目は本大学に従来用いられて来た社会学の名目のもとに宗教・村落・及び都市に関する研究の内で、特に、私、諸君の研究の基本の[illegible]研究に利用され得る社会学概念や方法について、その要点的なものを若干いろいろあげて説明した。

第二年目（即ち三十五年度）は先に述べた様に之れ等の三つの研究的枠組における日本の基本の現れの大体なところとその研究について述べ、今度は之れ等の方面における私自身の考へ方の基本について論じたい。

#

余の分類は時学的家居形式における分類、周期性と家の精[illegible]神と[illegible]（自主性）時学的発展の相の理解しの為。

第一 （構成）家族社会学の要旨（における）余の主張

一、家族形態の分類、余の三分類の世界的（字書的）

二、家族の周期性（六日十音以上）

三、家の結合と家の精神（の相違）

四、家の自主性、（風格さ）

五、同族に関する余の理解、（時代の）

六、最近頃の（日本人生活の）変容と世界の文明化（範囲）

私の研究に於る外人の多さと国際化

地域的集積の意味

各種の社会的統一が協力して一つの統一ある完結的社会形態（結果的に）を形成している場合の成員（素）の相互に認めあ。ている（総合的なり）共同体の形土

民族に規範を与へるのは代る作用である。（本能的）

同一地域に多くの集団が

~~民族の單一の地域化村と所在へ如ロ發展し始めたばかり、~~

為りの形態が支配する（それは政治の形態である）為りの形態は力による支配か、合議による協力かである。（その）

村落となったは政治体となる。

氏族は宗教団体、村落は政治体。

旨

一、第二村落（社会学）における全体の一主体の要素（私が農村社会学を始めたのは農村理解、村さへも不明）集団の地域的集積としての自然村（村落）の認識と社会学的操作

（共同体論では村落は既に与へられてある（共同体））とせられ、そこでは下部構造が上部構造を支配するは当然である。（下部構造を見ただけでは村落の統一性の正しい理解はあり得ない。）

二、村の精神（作用）＝社会意識（による）相互制約の統一としての村

三、三種の社会地区　第二社会地区の特殊性

四、村落（農）社会集団論＝部落の場合

集団分析によって農村社会学の業は大半つきる。

R.K merton "Social theory and social structure" 1949

余の農村社会学は1940

私の農村原理と要請。
要請を読んで貰いたい。

村落の
共同依存（唯物的）をなす理論によって社会階層が定
地をなす容認の場合、構成における
存在認落している家を~~共~~特殊的地位
ハおく様相の程度の場合色とす
説けはまるか。これは明らかに~~社~~都構
造か下部構造に届いていない場
合である。

五、社会構造、生活構造、社会
地区、生活地区の概念

以上十月三十一日

理論の拠点と社会学
全構造を見ると云ふのではなく集団の
全部を見ると云ふのである。
第二社会地区と自然村と精神
との集団の基本的であるかは異る。
唯物論者の下部構造 社会ならば今
有力な人の同族と経済
（示す体現神の心に過ぎぬ。何を以て心に見つかでは見方）
部をも少なく見る
（較察の対象として必要なもの

地区の取扱ひ
中心地 社会地区一、二、三、
都市 生活地区一、二、三
十種の集団
朝鮮の場合
生活と生業

以上十一月七日

余四 論文の要旨

都市に関する問題

一、都市の機能

社会的交流の結節としての機能

都市機能と機関

山村より大都市まで

十一月十四日

二、都市の社会構造

世帯と職場

正常人口の正常生活

大都市の異常人口と異常生活

三、都市の生活構造

(一)空間的秩序

(二)時間的秩序

都市化調査要項

a、機関の増加、種別の増加
従業員の対全人口比率の上昇

b、異質人口との社会関係の増加、
通勤通学人口の増加
当該部落内の機関に所属人員
参集人員（学校及び職場）

c、合理化の増加
信用貸借より担保、保証
人件、代貸借
選挙制。不文律より成
文法の採用
信用、貸（月末払、年末払）より
現金売買へ。正札売買。

四 都市化に関する余の理解

従来の社会学者の国家理解批判
一、国家起源論
一、国家多元論
一、輪廓集団論

社会分業論

国民社会内の生業活動
圏とテリトリー理論

（征服）
暴圧
命令
権威愛護
信仰伏
畏慕
掠取
無掠
交易
合力
共同
協力

（屈服、服従、信仰、思慕）

余の国民社会学における四つの立場

一、完結的社会としての国民社会

二、統治現象の末端より観察して行く国家統治現象の理解

三、（国民社会内の）協力の様式の型と力の組織
a.統治者と被統治者の協力、b.生業における協力、業者と商業者の他の生業との協力（雇傭制下の協力）c.労使間の協力 d.上官と下官との協力 e.交易による国民相互の協力、力による協力の安定

四、国民の勢力と革命

五、行政集団が国民社会の基礎たる事
行政集団の上に自然集団累積の理論
国家と行政機構の類比

○国民経済学原理論構

環境　国家には限定された領土がある。領土の中には環境がある。

人口分布

住居分布

職場分布

住居と職場の分布

職場の配置

交通路線

職場の集中と交通路線の集中

交通の中流れる内容（人と心と物）

統治と経済

その他の文化

統治の組織と経済の組織

その他の文化の組織

皆国家統治活動

生活活動と生産活動

国民経済内の様々の協力

#

国民生活組織

環境経済学の人口経済学（経済形態学）

生活活動における関係組織

生活地区（三種）、都市（二種）化区組織

農村（経済、）生活地区（三種）農村経済組織

生業活動における同化組織

生活の場と職場の未分化状態としての村落生活

生活の場と職場の分離移動と

都市化、都市の職場と住居

※口民経済内の個人の協力ル安定を与へるものは口家の武力　武力組織としての口家

文明の限界と革命

経済組織の上に個人の集団活動の蓄積。豊かな経済地域とその上の諸集団。経済組織が基礎は集団となりその上に雑多の集団の蓄積。経済組織としての口家。口民経済は口家の上にある総合的統一。

個人